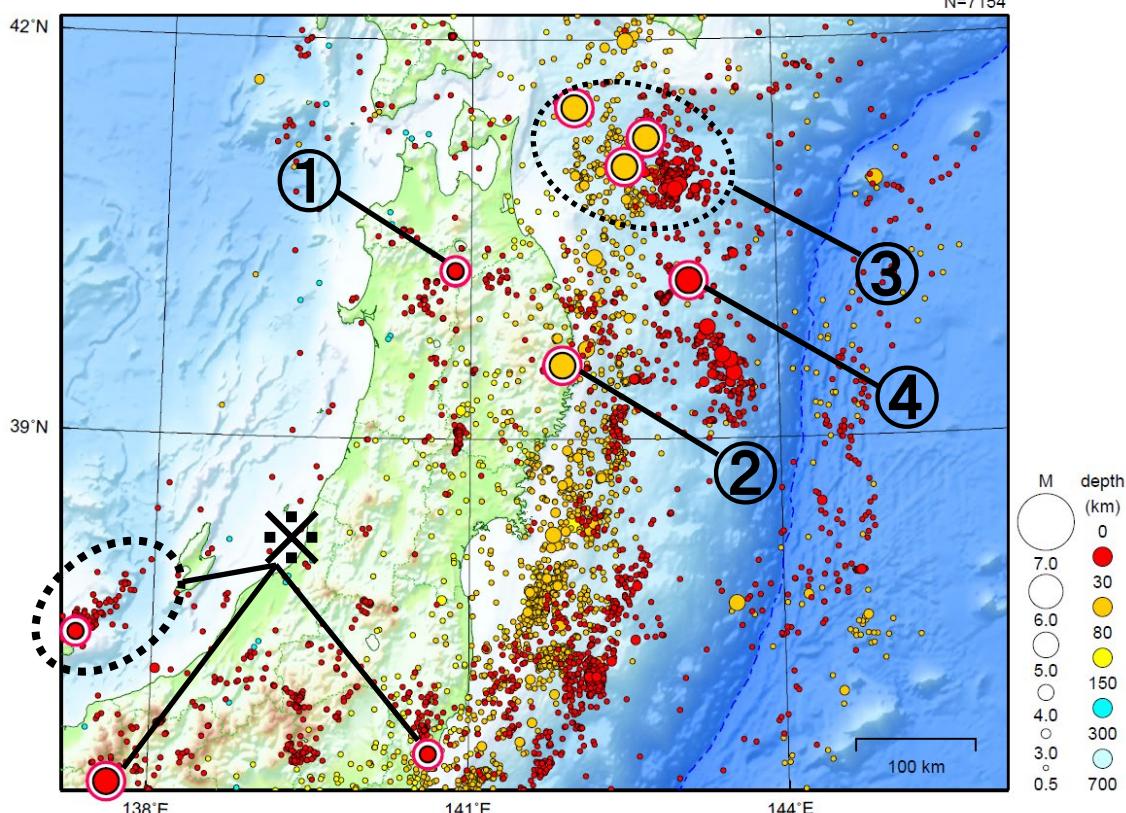


東北地方

2026/01/01 00:00 ~ 2026/01/31 24:00

N=7154



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 1月9日18時56分に秋田県内陸北部でM4.3の地震（最大震度4）、同日20時24分にM4.2の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 1月11日に岩手県沿岸北部でM5.1の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 1月17日に青森県東方沖でM5.4の地震（最大震度3）、21日にM5.3の地震（最大震度3）、22日にM5.5の地震（最大震度3）が発生した。青森県東方沖では、1月中に震度1以上を観測した地震が10回（震度3：3回、震度2：2回、震度1：5回）発生した。
- ④ 1月28日に三陸沖でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。

※示した地震については関東・中部地方の資料を参照。

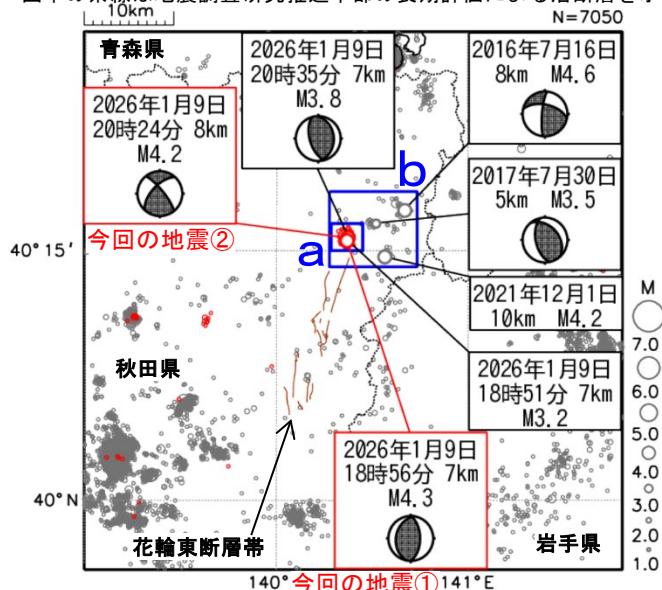
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

1月9日 秋田県内陸北部の地震

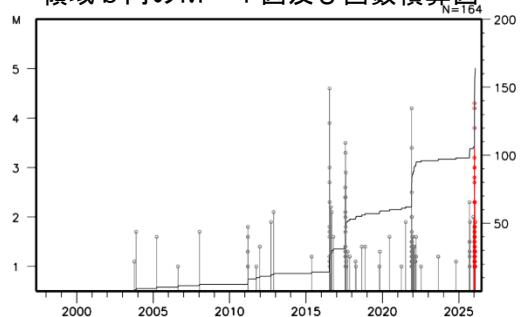
震央分布図

(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～30km、M≥1.0)

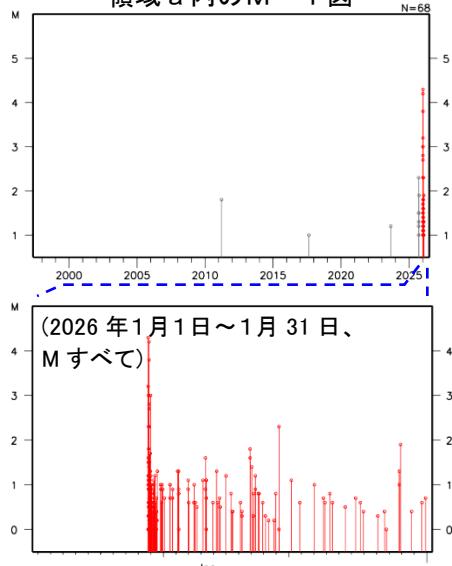
○1997年10月1日～2025年12月31日 ○2026年1月1日以降
図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。



領域b内のM-T図及び回数積算図

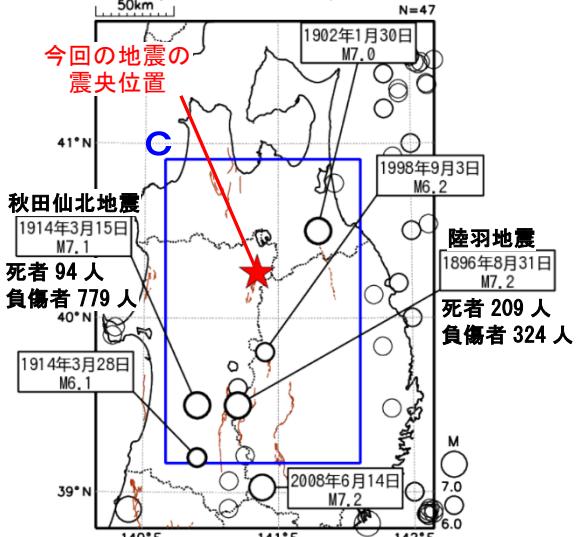


領域a内のM-T図



震央分布図

(1885年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～100km、M≥6.0)



図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。
被害は「日本被害地震総覧」による。

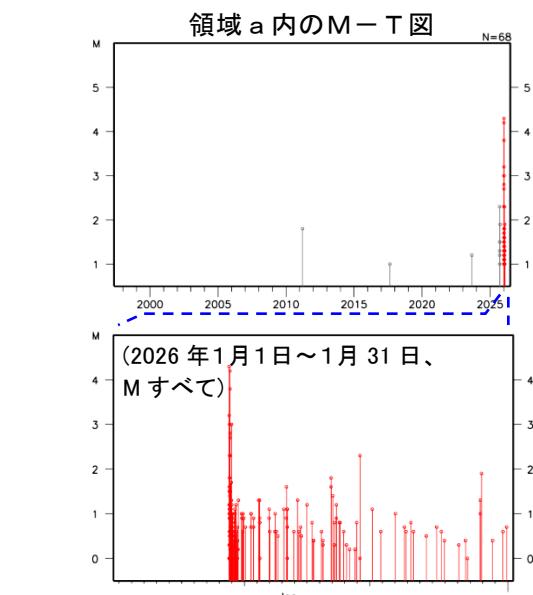
宇津徳治(1982)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年, 震研彙報, 56, 401-463.

宇津徳治(1985)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年（訂正と追加）, 震研彙報, 60, 639-642.

茅野一郎・宇津徳治(2001)：日本の主な地震の表, 「地震の事典」第2版, 朝倉書店, 657pp.

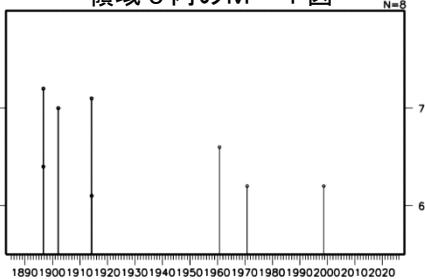
2026年1月9日18時56分に秋田県内陸北部の深さ7kmでM4.3の地震（図中①、最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。同日20時24分にはほぼ同じ場所の深さ8kmでM4.2の地震（図中②、最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の震央の近傍（領域a）では、9日18時51分にM3.2の地震（最大震度3）が発生して以降地震活動が活発となり、同日24時までに震度1以上を観測する地震が8回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：2回、震度1：2回）発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、2016年7月16日にM4.6の地震（最大震度3）が発生するなど、M4.0以上の地震が時々発生している。



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1896年8月31日には「陸羽地震」(M7.2)が発生し、死者209人などの被害が生じた。また、1914年3月15日には秋田仙北地震(M7.1、強首(こわくび)地震とも呼ばれる)が発生し、死者94人などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図

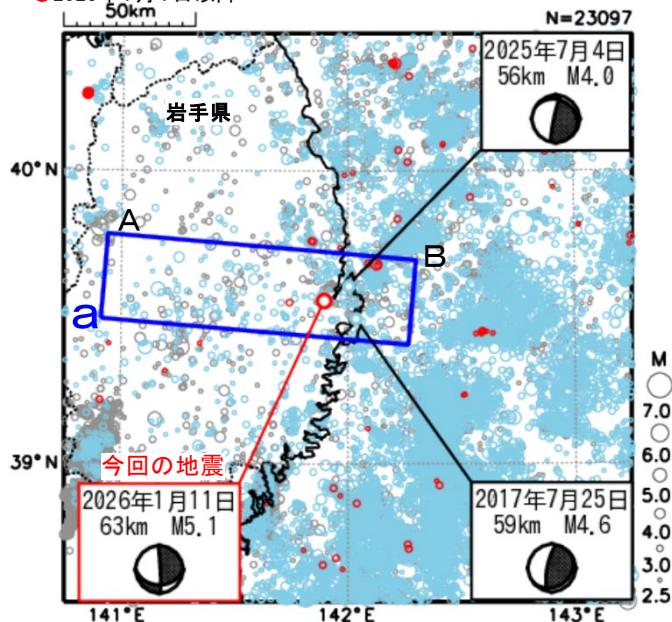


1月11日 岩手県沿岸北部の地震

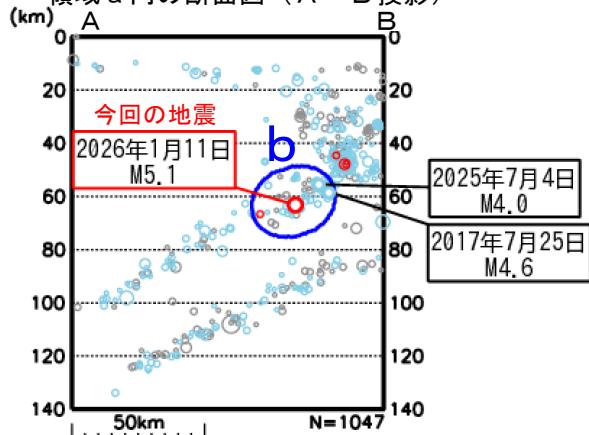
震央分布図

(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～140km、M≥2.5)

○1997年10月1日～2011年2月28日 ○2011年3月1日～2025年12月31日
●2026年1月1日以降
50km

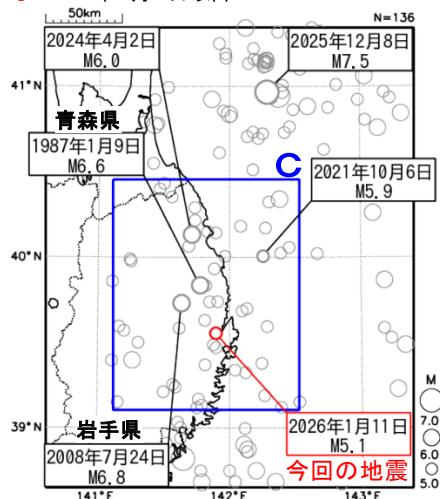


領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



震央分布図
(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ50～150km、M≥5.0)

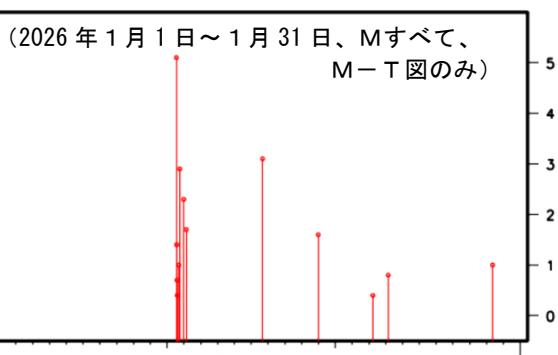
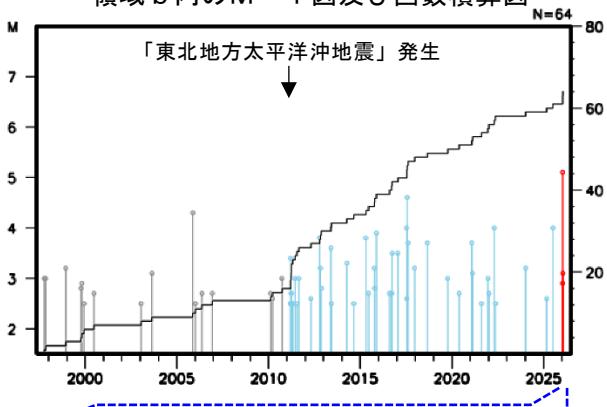
○ 1919年1月1日～2025年12月31日
● 2026年1月1日以降



2026年1月11日13時15分に岩手県沿岸北部の深さ63kmでM5.1の地震（最大震度4）が発生した。この地震は太平洋プレート内部（二重地震面の上面）で発生した。発震機構は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

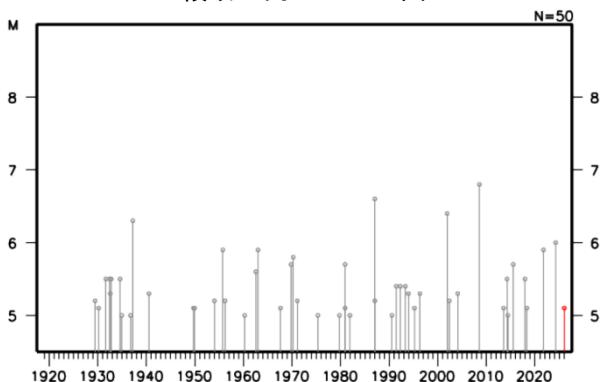
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 b）は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）以降、地震活動が活発となっており、M4.0以上の地震が時々発生している。

領域 b 内のM-T図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M 6を超える地震が時々発生しており、2008年7月24日には深さ108kmでM6.8の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震により死者1人、負傷者211人、住家全壊1棟、一部破損379棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

領域 c 内のM-T図

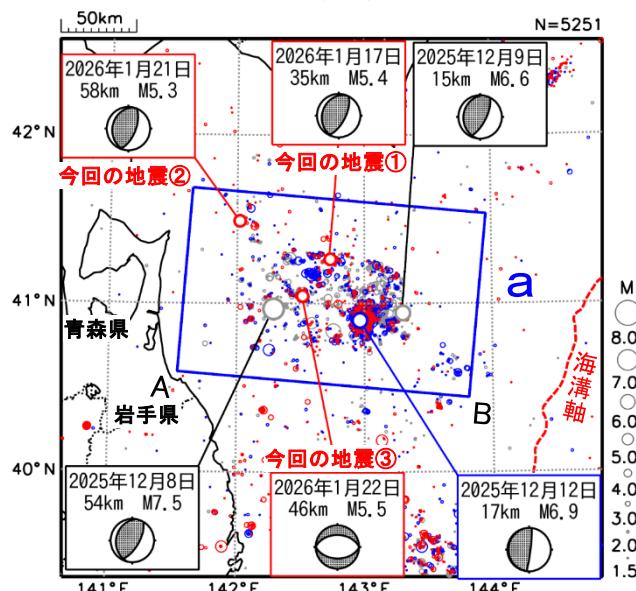


1月17日、21日、22日 青森県東方沖の地震

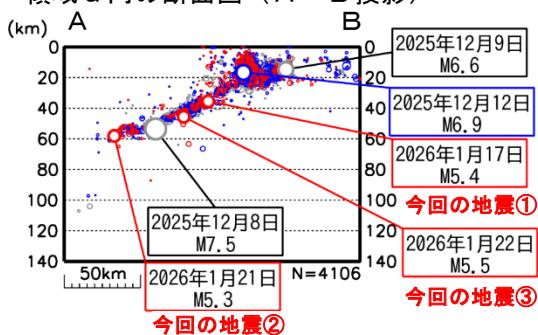
(2025年12月8日からの青森県東方沖の地震活動)

震央分布図

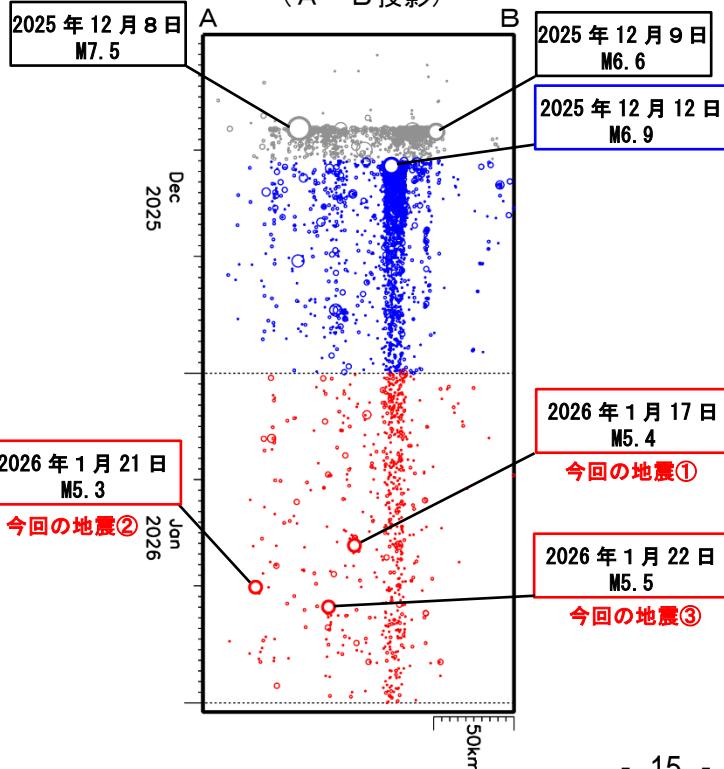
(2025年12月1日～2026年1月31日、深さ0～140km、M \geq 1.5)
 ○2025年12月1日～2025年12月11日 ○2025年12月12日～2025年12月31日
 ◉2026年1月1日以降 図中の発震機構はCMT解を示す



領域a内の断面図（A-B投影）



領域a内の時空間分布図
(A-B投影)



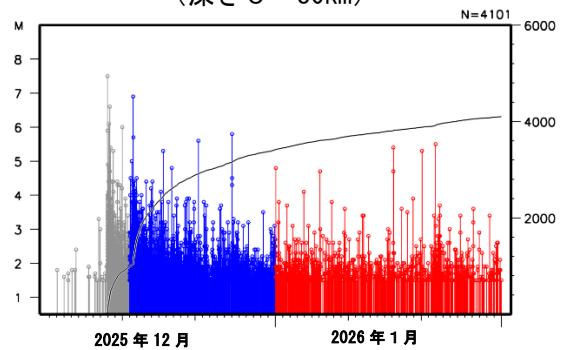
2026年1月17日04時34分に青森県東方沖の深さ35kmでM5.4の地震（最大震度3、図中①）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

また、1月21日02時51分に①の地震の震央から西方の陸寄りの場所の深さ58kmでM5.3の地震（最大震度3、図中②）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

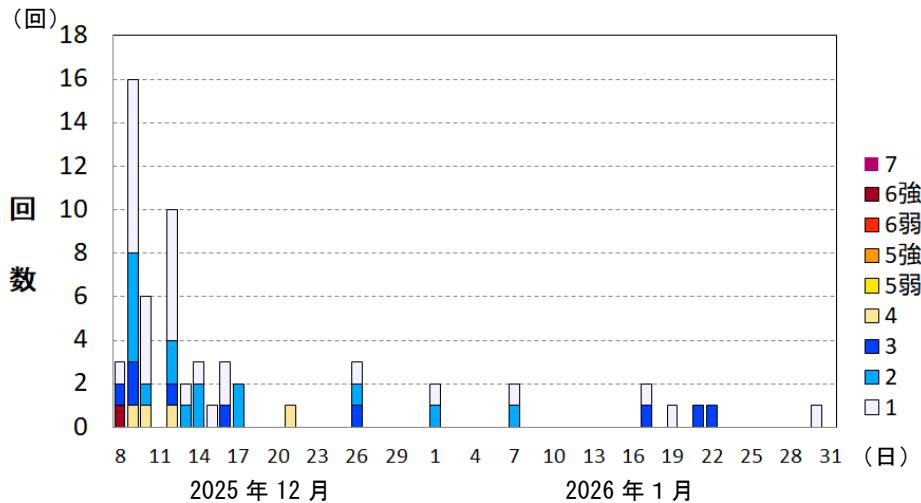
さらに、図中①の震央付近では1月22日23時31分に深さ46kmでM5.5の地震（最大震度3、図中③）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が南北方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

今回の地震の震央周辺（領域a）では、2025年12月8日にM7.5の地震が発生して以降地震活動が継続しており、特に2025年12月12日のM6.9の地震の震源付近で活発に推移している。領域a内で12月8日から1月31日までに震度1以上を観測した地震は、60回（震度6強：1回、震度4：4回、震度3：9回、震度2：16回、震度1：30回）であった。

領域a内のM-T図及び回数積算図
(深さ0～80km)



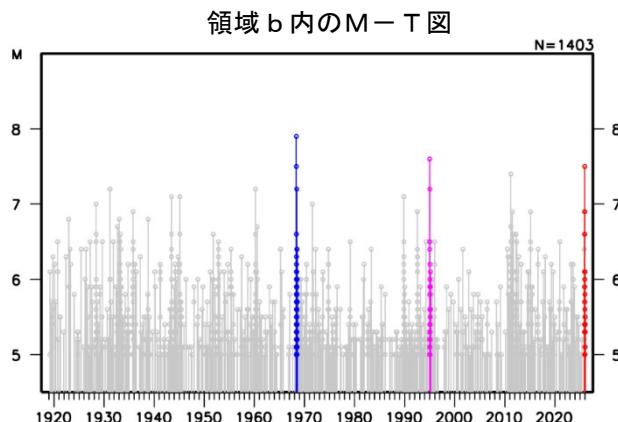
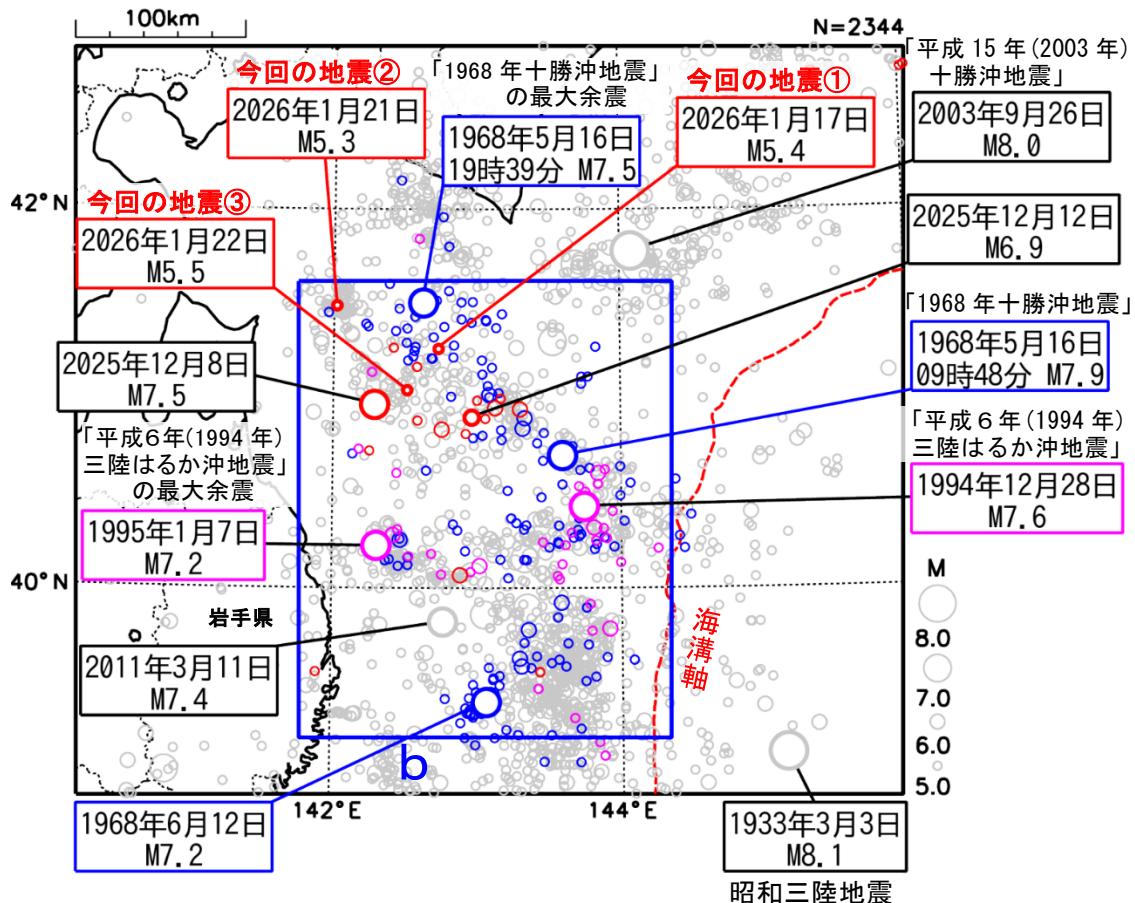
最大震度別地震回数（日別）
(2025年12月8日23時～2026年1月31日24時、震度1以上の地震)



最大震度別地震回数表（日別）

気象庁作成

震央分布図(1919年1月1日～2026年1月31日、深さ0～100km、M \geq 5.0)
 ○1968年5月16日～1968年7月31日 ○1994年12月28日～1995年2月28日
 ○2025年12月1日以降 ○上記以外の期間



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M 7を超える地震が時々発生している。このうち、1968年5月16日には「1968年十勝沖地震」(M7.9、最大震度5)が発生し、青森県八戸[火力発電所]で295cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測したほか、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟、半壊3,004棟、一部破損15,697棟などの被害が生じた。

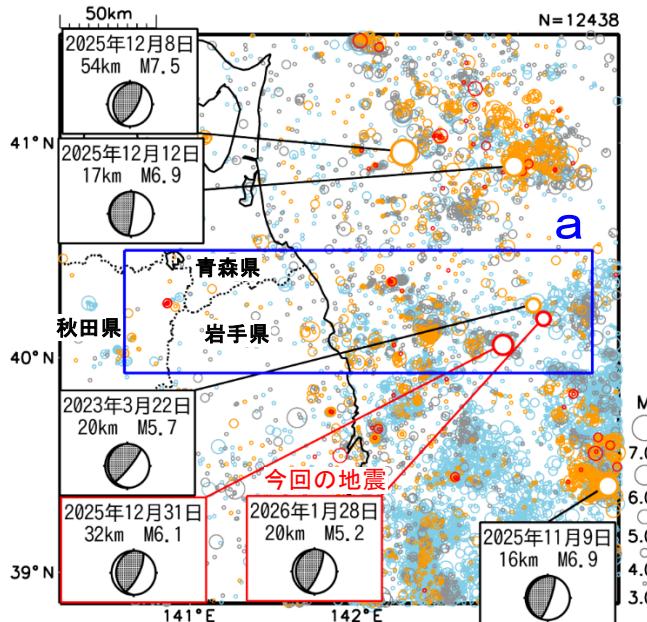
また、1994年12月28日には「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6、最大震度6)が発生した。この地震により、青森県八戸と岩手県宮古で50cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測した(「験震時報第64巻」による)ほか、死者3人、負傷者688人、住家全壊72棟、半壊429棟、一部破損9,021棟などの被害が生じた(被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による)。

1月28日 三陸沖の地震

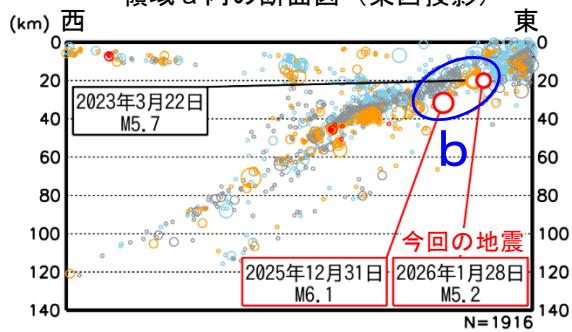
震央分布図

(1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～140km、M \geq 3.0)

- 1997年10月1日～2011年2月28日 ○ 2011年3月1日～2020年8月31日
- 2020年9月1日～2025年12月31日 ○ 2025年12月31日以降



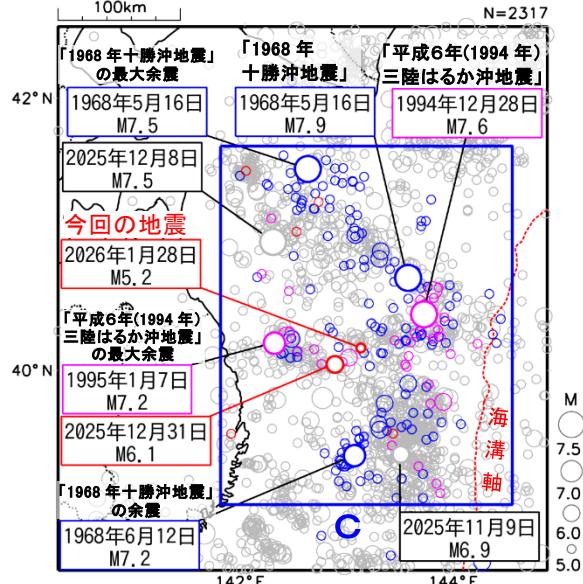
領域 a 内の断面図（東西投影）



震央分布図

(1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ0～100km、M \geq 5.0)

- 1968年5月1日～7月31日
- 1994年12月1日～1995年2月28日
- 2025年12月31日～2026年1月31日 ○ 上記以外の期間



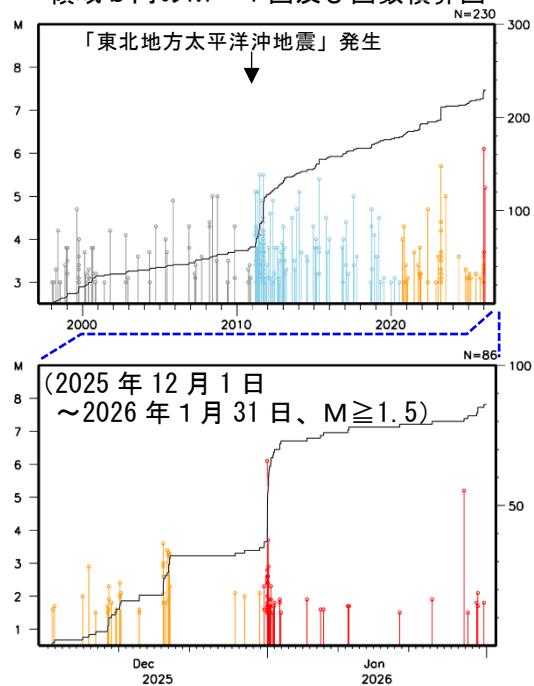
震央分布図

2026年1月28日19時45分に三陸沖の深さ20kmでM5.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西～東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 b）では2025年12月31日に深さ32kmでM6.1の地震（最大震度4）が発生するなど

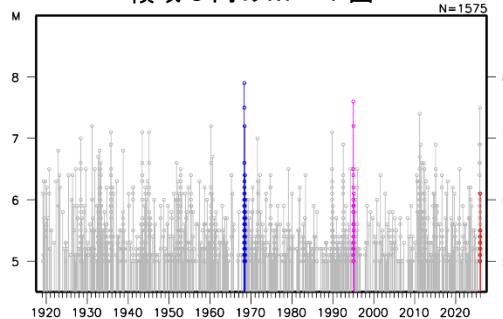
「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）以降、地震活動が活発となっていた。また、今回の地震の震央周辺では、2025年11月9日に三陸沖でM6.9の地震（最大震度4）が、2025年12月8日には青森県東方沖でM7.5の地震（最大震度6強）が発生している。

領域 b 内のM-T図及び回数積算図



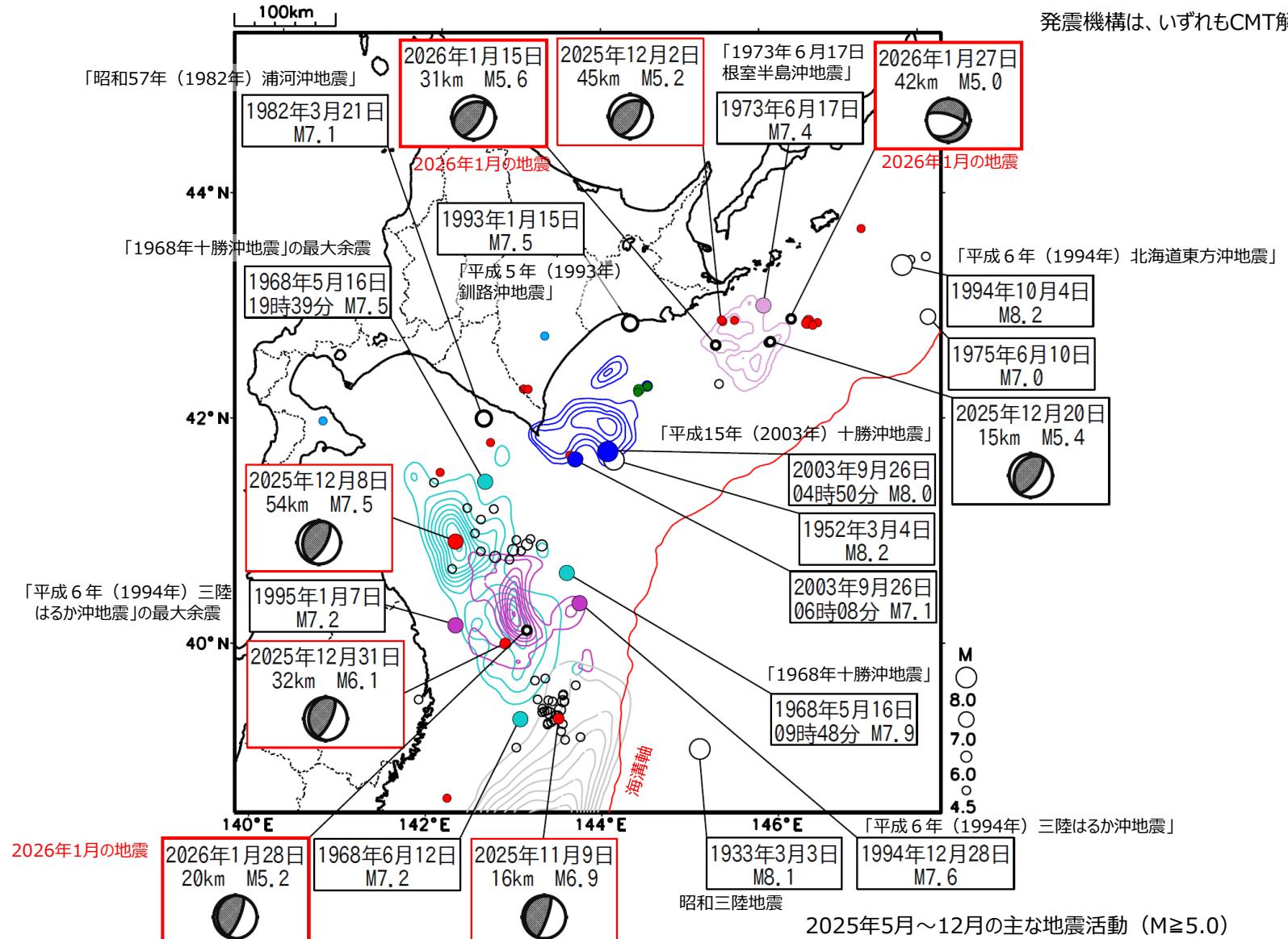
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M 7 を超える地震が時々発生しており、1968年5月16日に「1968年十勝沖地震」（M7.9、最大震度5、死者52人）で、青森県八戸【火力発電所】で295cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した。また、1994年12月28日には「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」（M7.6、最大震度6、死者3人）が発生し、青森県八戸と岩手県宮古で50cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した（「震災時報第64巻」による）。被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による。

領域 c 内のM-T図



気象庁作成

2025年5月～2026年1月の主な地震活動と1919年以降の主な被害地震（北海道東方沖～三陸沖）



○1919年1月1日以降の主な被害地震（吹き出しを付けた地震）

・震央の塗りつぶしは以下の地震の本震及び主な余震を、色付き等価線は、以下の地震時すべり分布を示す。

水色：1968年十勝沖地震〔永井・他(2001)〕

薄紫色：1973年根室半島沖地震〔山中(2005)〕

紫色：1994年三陸はるか沖地震〔永井・他(2001)〕

青色：2003年十勝沖地震〔Yamanaka and Kikuchi (2003)〕

灰色：2011年東北地方太平洋沖地震〔Yoshida et al. (2012)〕

2025年5月～12月の主な地震活動 (M≥5.0)

- 太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
- 太平洋プレート内部で発生した地震
- 陸のプレート内で発生した地震

※11月及び12月の主な地震に吹き出しを付けた

※11月9日三陸沖の地震 (M6.9) 及び12月8日青森県
東方沖の地震 (M7.5) 以降の地震活動は○で表示